

柏原市議会議員

# 山口ゆか

12月議会&amp;活動報告書

## 2期目 始動！

ムダのない、かしこく活かのできる柏原市を作りたい、めざすのはスマートシティ柏原

かしわらりょく

# 柏原力UP↑

Vol. 9

30年冬号

日頃の活動報告はブログ [Facebook](#) [Twitter](#) で配信中  
議会の動画は YouTube 「[柏原市議会](#)」で検索 山口ゆか 検索

2期目の挑戦、厳しい選挙ではありました。なんとか順位を上げて当選することが出来ました。

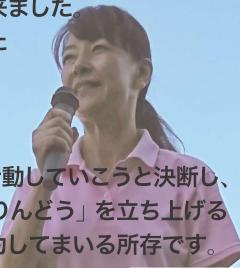
地域選出でもなく、政党もない私が前回より投票数を増やせたのは、ご支援してくださった

市民の皆さんのおかげです。本当にありがとうございました！

1期目の4年間、活動してきたことを市民の皆さんに見ていただいた結果と受け止め、

次の4年間も眞面目に柏原市政に取り組んでまいる覚悟です。

1期目の最後は会派を組まず、1人で活動してまいりましたが、2期目は会派を組んで活動していくことを決断し、この度、先輩議員である岸野友美子さんとご縁があり、女性会派を作るため「女性超党派りんどう」を立ち上げるに至りました。これからは、党派を超えた闊達な意見を出し合い、柏原市の発展のため尽力してまいります。



## 田辺旭ヶ丘線の早期完成を！

**市** 国分地区の東西を結ぶ「田辺旭ヶ丘線」について、事業の必要性や投資効果等を再評価するために平成28年29年で再評価委員会を開きました。この道路整備は事業効果が高いと評価され、5月に「事業継続」とする意見提出を受け、6月に市の対応方針を公表しました。

進捗状況及び整備計画はどうなっているのか。  
用地買収を含め、残りの事業費はどれくらいか。

**市** 進捗状況は、用地買収率94%、全体事業進捗率52%で、整備計画は区間465mのうち近鉄線より西側については全く道路がないので、側道の整備から段階的に効果が発現できるようにしていく。残事業費は約18億円。

事業着手から22年が経過しています。道路の必要性や投資効果が評価され、「事業継続」と位置づけられました。その効果が得られるよう、停滞せず事業を前におし進めてください。完成を心待ちにしている市民がおられます。問題を先送りにせず、世代間のつけを生じさせず、道路を完成させてください。再評価されたように、この道路には経済効果があります。マクロ的な視点で市の経済を見ないと財政復活はないと言っても過言ではない。早期完成を！

### 市の対応方針

- 可能な限り工事費のコスト縮減に努め、早い時期に整備完成するよう努力する。
- バイパス道路計画の事業推進を行いつつ、段階的に効果が発現できるよう生活道路としての側面も重視した道路整備となるよう努める。
- 騒音や大気汚染などによる沿道地域への環境負荷をできるだけ軽減することや周辺の環境対策にも配慮する。



## 教育【新学習指導要領】

### 道徳教育

**教** 来年30年度から小学校で、平成31年度から中学校で「特別の教科道徳」が始まります。数年前から授業や評価の方法についての研究を進めています。

道徳教育の全体計画と指導の基本方針は？

**教** 「家庭や地域社会と一緒に豊かな人間性の育成に努める」など全体の指導方針を打ち出し、「道徳基本方針」を示すとともに、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を構築し、全教員の共通理解のもとすすめている。

道徳教育とは、人として生きていく道筋や、大人になるうえで規準となるものを示すことです。例えば「嘘についていけない」こと。その時だけは言いごまかして嘘が通じたとしても、後々そのことで信用を失くし信じてもらえないこと。「ものを大事にすること」。ものを作るためにどれだけ汗をかき働いている人がいるか、自分がものを作る立場になった時、気持ちよく使ってくれる喜びや誇りをもてる。歴史はつながっていること。先人が作ってくれた

### 英語教育

平成32年度から大学入試や高校入試で民間の資格や検定試験の成績が活用され、英語教育の転換期となります。今や日本も国際化し、日本の各都市が海外からヒトモノカネを呼び込んでいます。経済的に進学できない生徒にも民間資格をとることや語学を勉強することで将来の道が開けること、英語を武器にして自らの手で貧困の連鎖を切るチャンスを手に入れられることを教え、公教育の段階で基礎力として身に付けてあげてほしいのです。また、英検などの会場に学校としてはどうか、という観点も検討していただきたいです。

れたものや仕組みの中に私たちは生きていて、今の自分たちが意思決定したり何かを作ることは未来の人の生きていく社会の基盤となること、だから今を一生懸命に生きていかないといけない、自分だけの人生と思っていい加減に生きてはいけないことなどです。それらを教える先生が「ゆとり教育」という制度のもと、授業の時間数が縮減され十分に道徳教育に時間を使われず、道徳とはどういうものなのか、先生が不安になっているかもしれません。先生個人の価値観ではいけない、市教委として伝えたい大人像の全体ビジョンを示すことが重要です。変化の激しい社会の中で、つらいことがあっても立ち向かえる強さを子どもたちのために描いていくことが大事なのです。

